

第二幕第三場 森

エドガー

俺を捉えるよう布告がでたらしい。  
どの港も封鎖され、至るところに  
見張りが立って徹夜で目を光らせている。  
逃げられるかぎり逃げ延びるんだ。そうだ、  
いいことを思い付いた。

うんと卑しい、あさましい姿に身をやつそう。  
貧しさに追いつめられ、人間らしさのかけらも  
ない畜生同然の姿にな。顔には泥を塗りたくり、  
腰にはぼろ一枚。髪はくしゃくしゃにもつれさせ、  
裸をさらして、風や雨という  
空からの追手に立ち向かおう。

国じゅうをうろつく気違い乞食が  
いいお手本だ。

あいつらは恐ろしい声でわめき散らし、  
感覚を失なったむき出しの腕には  
ピンや木串、釘やローズマリーの小枝を  
突き刺している。

この見るも無残な格好で、貧しい百姓家や  
小さな村や、羊小屋や水車小屋を訪ね、  
時には狂気の呪いを浴びせ、時には祈りを唱えて  
施しをせがもう。哀れなトムだよ！  
そうすればまだ何とか生きられる。

エドガーのままではどうにもならない。(退場)

『リア王』作 W・シェイクスピア

訳 松岡和子

ちくま文庫発行 参照